

クオニカル

第 22 号
2015 年 10 月 1 日
一般社団法人
自立生活センター三田
通信・発行

意志のあるところに道は開ける (リンカーン)

今を見据えて生きる。澄んだ瞳。聡明な瞳。瞳には多様な言い方がある。一点を見据えた瞳は何を語ろうとしているのか？

または、何を胸奥に、秘めているのだろうか？

今夏に見た『標的の村』ドキュメンタリー映画の中の少女の瞳が忘れられない。圧倒的な力に怯まない、その瞳は清らかに澄み強烈に私を射った。

障害を持って自分らしく生きようとする、何かしらの力が押し寄せてくる。

では、その見えないものはなにか？

当たり前のことと教えられてきたことが当たり前でなくなる時である。

“そんな生き方は私ではない”と考えるようになると、ぐっと抑えてくる力にぶちあたる。その日から見るもの、会う人の目の違いに気づかされたりする。意思を持たないように見えていた一輪の花がことばを語り始めたりする。

自分で稼ぐことのできない障害者の生活を支えるために制度がある。

制度そのものは決して障害者を苦しめるものでも、生き辛くさせるために作られたものでもない。

しかし見えないところで、当事者たちを抜きにして進められている事柄が多い。

制度に込められている内容は、時代や政局によって移りかわり、ひたむきに生きようとしている障害者の前に立ちはだかり苦しめる力へと変貌をとげる。

多くの障害者が目覚め、声に出して戦わなければならない時、瞳はまばたきをしない……。

障害に向き合っている人々の思いを否定することは、誰にもできない。

見ようとしなければ見えないもの、意識していなければ見過ごしてしまうもの、気がつく
と首の下まで押し寄せてくる力がある。

現在の社会は個人の思いは届かず歴史を力づくで変えようとしているかに見える。

今こそ曇らない、静かに燃える“いのち”の瞳を持ち続けよう!!! (よしだ)

目次 ・活動報告 上映会「うまれる、ずっといっしょ。」

・みちさんの庭、その後

・スタッフの声

・予告



活動報告

上映会「うまれる ずっと、いっしょ。」



今までは障害に関する映画を上映してきましたが、今回は生と死を通して「いのち」に向き合う 3 組の家族のドキュメンタリー作品を選びました。映画の中には、出産前検査で胎児が重篤な障害を持っていることを知らされた夫婦が、産むことを決断し、懸命に生きるわが子を見守り育てていく姿があります。また最愛の家族の死にそれぞれの立場で向き合っていく家族、血が繋がらない息子と向き合う父の苦悩と愛情などが描かれています。

この映画を通して、家族の絆と、どのようないのちであっても選択されるのではなく、かけがえのない唯一のものだということをお伝えしたいと思い、この上映会を行いました。

多くの幅広い年代の方々が会場に足を運んでくださりましたことに深く御礼申し上げます。
(よしだ)

当日の様子



ドキュメンタリー映画「うまれる ずっと、いっしょ。」

9/4（金）9/6（日）三回上映

《上映会開催のご報告》

各所、ご後援いただきました皆様へ心より感謝いたしますと共に、上映会を無事に開催できましたことをご報告いたします。

ご協力、ご支援いただき ありがとうございます。

上映会では、ママさんタイムを設定し、会場内にもプレイルームを設置しましたことでご家族そろって、ゆっくりと鑑賞いただけたのではないかと感じております。

託児室も設け、保育士にお子様を預けママだけでしっかり見ていただけるようにも考えました。上映後、託児室にお迎えに来られるママの笑顔が一段と素敵に思えました。

それぞれの家庭、家族、地域との繋がり、色々な要素を含むこの映画は、観る人それぞれの心、想いに重なる部分があったことと思います。

上映をする側としても、参加していただいた皆様と大切な時間を過ごせたことを感謝すると共に、この映画を通して新しい繋がりをもてましたことを嬉しく思っております。

株式会社インディゴ・フィルムズ 映画「うまれる」事務局からお預かりしました学校上映のための支援金ボックスに、9/4・9/6 両日合わせ¥2,186のご支援をいただきました。事務局側に送らせていただきました。

教育の現場でも、この映画を上映していただける機会が増えたらと願っております。

ご協力いただきましてありがとうございます。 (八亀さゆみ)

「うまれる ずっといっしょ。」上映会を終えて

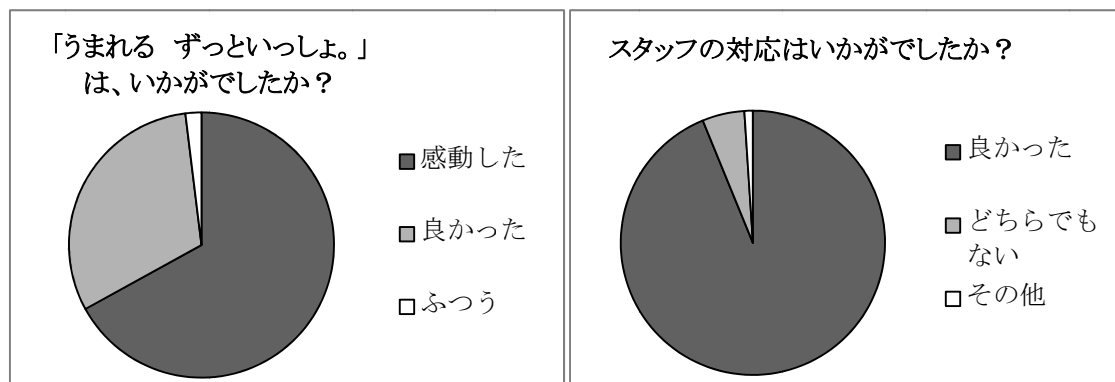
上映会の運営に参加するのはこれで4回目です。今までは、障害者の方にスポットを当てた作品を上映してきましたが、今回は、「うまれる」ことと「死ぬ」こと、そして家族とは何か、ということを考えさせられる、どんな人にも当てはまるテーマの映画の上映となりました。なぜ今回は障害をメインとせず、このようなテーマにしたのかというのは、吉田さんの言葉の中に詰まっています！

上映会の準備なども含めてこの映画は5回ほど観たのですが、何度見ても号泣してしまいました。血の繋がりが無いことを子どもに伝える父親の姿や、障害を持って生まれ、常に死と隣り合わせでありながら一生懸命に生きている子供とその家族の笑顔、長年連れ添った妻を亡くした夫の思いなど、それぞれの家族の葛藤や支え合いを観ることで、いのちについて、家族について、改めて考える機会となりました。

いのちには終わりがあるけれど、生まれてから死ぬまでに、何をすることが大切だと感じました。今やるべきことや、やってみたいことに全力で取り組み、生きていることに、また家族をはじめ周りの人に感謝しながら過ごしていけたらいいなと思います。

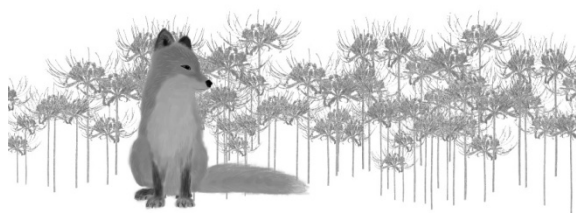
(ミキ)

アンケート結果



- ☆ 自分の今とリンクする場面があり、泣きたいのに笑っている人の強さはやさしい姿をしているものだと思います。
- ☆ 自分の考えていること、イライラしてしまっていることは何なのか、文句を言わず生きていかないと・・・と反省しました。
- ☆ 健康の大切さを身にしみました。世の中、いろいろな人がいろいろな苦しみと向いながら生きていると知りました。
- ☆ 一瞬一瞬を大切に、これから過ごしていきたいです。
- ☆ 人が生まれてから死ぬまでの間には、いろんな運命にさらされているが、その中で絆をはぐくんで、又力強く生きていく姿に感動しました。
- ☆ 三田で上映されることがあれば必ず見ようと思い、本日念願がかないました。
- ☆ 大切な家族と過ごす時間が、とても幸せなものであること、そして限りあるものであることを改めて感じることができました。
- ☆ 託児室とは別にフリーのプレーステーションを設置されていたことに、細部にまで心を配られている暖かさを感じました。

スペースの都合で、すべては記載できませんが、他にもたくさんのお声をいただきました。ご参加くださった方々、さらにアンケートにお答えくださった方々へ厚く御礼申し上げます。



《みちさんの庭 その後》

障害者の当事者運動と介助者の立場 研修から学んだこと感じたこと

平成27年3月24日 石地かおるさんより自立生活センターの設立に関するお話と要項など 障害者の当事者運動などについて お話を聞きました。

また 平成27年4月26日には 介助者としての立場を長年コーディネーターをされておられる方から 実体験をもとにお話を聞くことができました。

2回の貴重な研修より 学んだことや感じたことを書かせて頂きます。

私自身は 以前は 重度心身障害児の施設で6年間 また精神科の認知症と統合失調症の病棟にて12年の介護職員として働いてきました。
その後 縁があり 吉田さんの介助者として 勤務して1年がたったばかりです。

当時 吉田さんの介助をしてゆく上で かなり自分の中で葛藤がありました。吉田さんは当事者であり また 自分自身の上司でもあるからです。

過去 病院勤務で 一番尊敬する上司は 当時はじめて勤務についた病棟の婦長さんで その方は 常日ごろより こう考えられておられました。

健常者を○のカタチであらわすならば 障害者の方は その○のどこか一部分が欠けており その欠けた部分を埋め合わせて ひとつの○にしてあげれるのが 介助者としての役目である。。と。言葉で表してしまうと簡単なのですがその奥義は とても深く真心のこもったもので 精神的にも 身体的にも完全な○にちかづけるように心を込めて介助するのだという信念を持った方でした。その尊敬する婦長さんの お話に感銘しただけですら 自分なりの心のこもった介助をすることで 仕事にも 実生活にも生かすことが出来 今の自分があることに感謝しています。

そんな 私が まったく 違うカテゴリである世界に 飛び込んで1年が過ぎました。たくさんの葛藤。今までの考えを打ち砕かなければ 吉田さんの介助には はいれなかったのです。

今まで 考えていた 介助者としての立場。それは 悪い言葉で言い換えると偽善者的な自己満足だけの 介助であったこと。
健常者が ○のカタチなのではなく 自分自身も ○のカタチにはなれず どこか欠けている不完全な人であったこと。。
人は 助け合わずして 一人では生きていけないこと。
健常者であれ 障害者であれ 目に見える障害 目に見えない障害を 誰もが抱えて生きていること。

(自分は健常者です)と 言いながらも 重度の障害を持つ 吉田さんに支えられてこの1年を 過ごしてきたこと。

また ここでは深くは書けませんが 2回の研修で 学んだことは 健常者 障害者関係なく 人は 助け合って 学びあって お互いに良い影響を受けあいながら 生きてゆくものなのだと 感じているのです。

障害者の当事者運動に関しては まだまだ 学びきれていないので ここでは 書くことが出来ません。

ただ わかっているのは 吉田みちさんという 一人の女性が 重度の障害を持って自分の生き様を そのまま 世の中に 発信しているのだという事実です。

その日々の 行動や 生活の中で どれだけたくさんの人に (何か) を伝えられるのか自分が その(運動)にどれだけ貢献してゆけるのか。。大きな課題です。

当初 (それは夢のような話で この社会の中では 到底不可能だ。。) というのが私の見解でありました。
半信半疑 吉田さんの行動や 助言や 介助での日々に色々な葛藤もありました。けれども 日々 人というものは 考え 思い巡らし 経験をし 学ぶものであり一ヶ月たち 二ヶ月たち あっという間に 一年が過ぎ 少しずつ わかってきたように思えます。

どんな小さな力でも 集まれば 大きな力となり 夢も叶えられるのです。叶わないから 夢であり 希望なのだと思いますようにになりました。

この一年で 自立生活センター三田にも 少しずつ 希望が 見えます。去年 植えた (みちさんの庭) には 種から 育て 皆で はぐくんできた 花々が 見事に咲き誇りました。

(やまちゃん)



スタッフの声



初めまして八亀（やかめ）です。私はこちらに勤めてからまだ半年です。職場ではみんなニックネームで呼ばれているのですが、若い方も多いせいか「八亀さん」と呼ばれています。皆さん遠慮されているのかな？私の友人たちは「かめちゃん！」と気軽に呼んでくれるのですが・・・

私と障がいを持った方との出会いは小学生のころです。転校した小学校で隣の席にいたのが下肢に障がいのある男の子でした。とてもサービス精神豊かな子で、緊張している私を和ませてくれました。

10代になってボランティアに参加し、小さな障がい児の学園で一緒にお散歩したりお絵かきしたり、たくさんの驚きがありながらも笑顔にさせられました。道に這うアリの2人で寝そべりながらジーっとみていたり・・・きっと周りから見れば可笑しかったですよね。

障がいだけでなく、院内学習のお手伝いもさせていただきました。小さいながらに重い病気と闘う子ども達を目の前にすると自分の感情をコントロールするのは大変で、涙がこぼれるのを耐えるには胸が苦しくなりました。

そうやって、小さくても障がいや病気を抱えながら一生懸命に生きる姿を応援してきましたが、職業として携わることになったのは今から十数年前からです。知的障がい者の方々が暮らす施設でした。

障がいを抱えながら子ども達も成長し、施設へ入らなければならなかったり、高齢になり病気になっても病院に入院するのも断られ、制限され、行き場のない現状を見て、これから先に何ができるのかを悩みました。

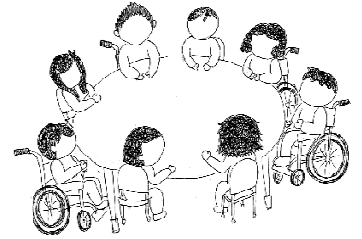
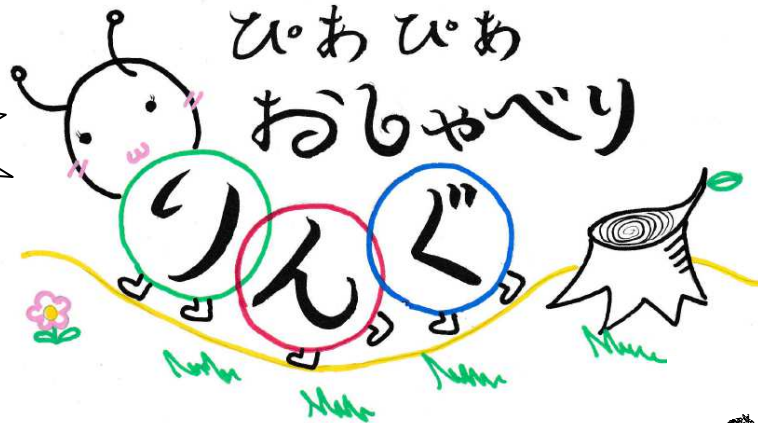
自分の夢や希望に近づける生活、学習、仕事、どんな障がいにも関わらず、その人らしく生きていける社会であること。

どんな障がいを持っていても、諦めるばかりの時間を過ごすことのないように自分で選択できる環境を、当事者である方々の声をもっとたくさん聴きたいと思っています。

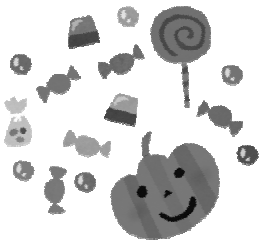
そして、もっと多くを学び知識を増やし、障がいの有る、無い、の境をなくせたらと願い、私のライフワークとして続けられるよう、この職場に期待を持ちながら勤めていけたらと願っています。

(八亀さゆみ)





あんしん はな ば
安心して話せる場をつくれます。
 しょうがい どうし きらく
障害のあるひと同士、気楽におしゃべりしませんか？



きかく つく
企画からいっしょに作りませんか？
 きょうみ かた れんらく
興味をもたれた方は、ご連絡ください。

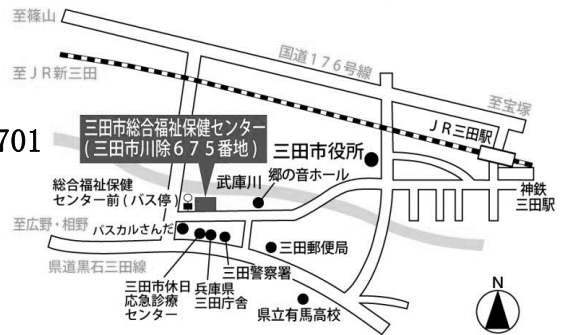
おしゃべりだけの日や、パーティ・お料理・クラフトなどの
 イベントも不定期で企画予定です！

【場所】 三田市総合福祉保健センター

三田市川除675番地 TEL 079-559-5701

【日時】 金曜日 13:30 ~ 15:30

日程が決まったらご連絡します



【参加費】 内容に応じて変わります。

(おしゃべりだけの日は無料 ・イベントの時はお茶菓子代として 100円など)

【お問い合わせ・お申込み】 自立生活センター三田 ☎079-567-3578

編集後記

縁あって、この号から「クロニクル」編集のお手伝いをさせていただくことになりました。人生は一期一会の積み重ね。今、まさに「クロニクル」を手にとってくださっているあなたとも、またしかり。出会いに感謝して、色々な方々の、色々な思いを発信するお手伝いをしたいと思います。

新しい事を始めるってワクワクしませんか。今なにか躊躇されているなら、思い切って、その一歩を踏み出してみませんか。きっと何かが変わるはずです。(前川)



☆障害を持っている方 自立生活センター三田のスタッフになって働きませんか？
ピア・カウンセリングやクロニクル編集などなど、他市の障害の仲間との交流をひろげましょう！！そして、悩みや不安を共有しながら、一緒に自立生活センターをつくってみませんか。

(交通手段等何でも、相談に応じます)

☆介助スタッフ募集 障害を持つ方の生活を支えるやりがいのあるお仕事です。
資格、経験のない方でも相談に応じます。

(資格取得応援します)

時間 ①10:00～19:00 ②19:00～8:00

(短時間でも、相談に応じます)

☆ボランティアさん募集 各種イベント、クロニクル活動などなど、ご興味のある方は、是非ご連絡ください！

すべて詳細は下記にお問い合わせ下さい。



2015年10月1日発行

一般社団法人 自立生活センター三田

三田市駅前2番1号 三田市まちづくり協働センター6階気付

☎ 079-567-3578 <http://cil-sanda.jimdo.com/>

✉ cil_sanda@yahoo.co.jp